

1 目的

青少年の科学技術離れが進み、高校生や中学生における理科嫌いは、本市においても同様の傾向がある。地域の指導者、教員・学生・生徒・児童・市民や地域の企業、行政が一体となって、次世代を担う子どもたちに科学の楽しさや魅力を伝え、感性を育む楽しいイベントを企画し、相馬市の子どもたちが科学技術の魅力に触れ、興味・関心を高める機会を提供する。

2 令和元年度の反省と課題

- 当初予算 700,000円
- 協賛金 190,000円

計 890,000円

誘致企業を中心に協賛金を頂いたことで、ブースの実験等に関する諸費用分が増額できた。また、パンフレット印刷等も可能となった。

- 支出 857,030円
- 補助金

福島県地域創生総合支援事業の補助金申請をしたが、県が本地区で同様の事業を行っていることから、採択されなかった。

- 参加者数 総数 1,392人
 - 小・中学生 426人
 - スタッフ 316人
 - 保護者(乳幼児含)等 650人

- 参加者の中心は、小学生とその家族だった。中学生が参加しやすい工夫と楽しめる内容が必要である。
- 魅力ある出展内容だったにも関わらず、その具体的なことを子どもたちへ周知できなかった。パンフレットだけでなくウェブページをつくってPRしたが、楽しさを十分に伝えることができなかった。

3 令和2年度の開催について

- 期 日 令和2年8月8日(土)
- 当初予算 700,000円
- 改善点
 - 中学生の活躍の場を設定
 - ◎ ブースの担当
 - ・ プログラミングによる自走式ロボット競争
 - ・ 放射線ブース等
 - ◎ ボランティア活動
 - 広報の工夫

出展内容を早めに明らかにし、全児童生徒及び保護者に周知する。PTA総会等において一次案内を配付する等、広報の場を多くする。
 - 魅力ある授業

理数科目を中心に

